

佐倉の地名

令和6年 10月1日発行・第34号

当会は郷土の地名を通じて佐倉市とその周辺の
考古・歴史・地理・民俗等を調査し、郷土意識の
啓発に資することを目的としています。

発行 佐倉地名研究会
会長 田中 征志

<主な記事>

和田の地名について 3	田中 征志	P 1
佐倉藩と天狗党	田中 征志	P 4
孔子と楷樹	近藤維久子	P 6
佐倉・宮小路町の 小字の由来	小川眞費	P 7
「石神」の地名	伊藤 清	P 8
志津の地名	田中 征志	P 9
佐倉の寺院 1 宗派別寺院の分布	伊藤 清	P10
地名研究会通信欄		P12

和田の地名について その3

田中征志

下勝田 重右衛門の小祠



明治三十五年八月 三日
世直神社二百五十年記念
下勝田氏子中

この石碑は下勝田の鎮守天満神社境内にある。周りには雑草が茂り、他に三峰講や菅原道真公の千年記念碑などが建てられている。

下段の文章は「民権操志」加藤久太郎著のうちの「五氏の實傳」に記された下勝田重右衛門の部分で、宗吾研究者滝口昭二氏の蔵書から、小坂義弘（元地名研会員）が写し、滝口氏の協力でふりがなを付けたものです。

こじたままたまこうつむら あそ またみち てん しもかつたむら
居士偶々公津村に遊び 又道を転じて下勝田村
に至り其古跡を訪う 同村鎮守の境内一小祠
あり世直神社と稱す 就て里人に問へば
里人潸然として涙を拭ひつつ云て曰く
承應の昔 堀田侯増租加税の時に際し 木内
氏藩政の暴虐を憤り 生命を擲ちて
衆群中より蹶起し 領民を塗炭の中に救は
んと期するや 重右衛門等同心協力して生死
を共にし 人民惣代として江戸に至りて領主
に久世候に歎訴し 百種の艱苦を嘗め一片の
正義に凝りて志操を勵まし 事遂に成ると雖
も身は十里四方追放の申渡しを受けて異郷に
流浪するに至れり 已にして木内氏父子磔刑の
惨況を傳え聞き 天を仰て流涕し自ら
髻を切て之を書信に封じ 人に托して
當村鎮守の社の納めしめて 他の四人と同じ
く高野山に登り 後諸国を歴遊して終に他郷
不葬の鬼となりしを 当時の村民其遺徳を追
賞して 一小祠を建立し 前に鎮守の社に
納めし 髻を其内陣に移して是を其人に代へ
毎歳八月四日を以て窃かに其祭祀を為せり 然
れども當時の領主を憚りて 五穀豊穰国家
安全に事を寄せ名を世直と稱せるなり云々と